

# 会 報

第 10 号

1 9 7 5 年

## 目 次

中村先生感謝会 .....	2
中村進先生のこと（平野先生のお話より） .....	3
中村先生のご挨拶 .....	3
中村先生への記念品について .....	4
小林先生・中谷先生・中村先生をかこむお茶の会 .....	5
回顧と感謝 .....	小林 薫 一 6
夢の跡に .....	中 谷 太 郎 7
停 年 .....	中 村 進 8
平野先生の喜寿をお祝いする会 .....	9
研究室だより .....	10
お母さんたちの数学勉強会 .....	11
中村先生の海の家を訪ねて .....	11
北海道だより .....	12
報 告	
Ⅰ 研 究 部 .....	12
Ⅱ 厚 生 部 .....	13
Ⅲ 数専会経過報告 .....	13
Ⅳ 数専会会計報告 .....	14

東京女子大学 同窓会 数専会

## 中村先生感謝会



昭和16年以來、約30年間、母校のためにお返し下さいました中村先生が、

昭和47年3月にご定年を迎えられました。6月の緑さわやかな日に、私共卒業生は、研究室の先生方と共に、ささやかな感謝の会を開きました。当日は天候に恵まれ、大勢の方々が参加され、中山さん(38年卒)の司会で、などやかに会は進められました。

はじめに、会長のご挨拶。中村先生は3月でご定年でしたが、引続き講師として教鞭を取っておられるので、延び延びになって今日に至りました。先生は、都城中学、鹿児島高校、京大をご卒業の後、青山学院で10年間教壇に立たれ、後、昭和16年より女子大にこられました。それ以来今日までご指導いただいております。記念品は、今度、千葉県にお建てになるお家の中二階分に当てられるそうです。清野さん(32年卒)は、今までのご指導を感謝すると共に、今後とも健康で、ますますご活躍下さいますようにと、一同を代表して感謝の気持ちを述べて下さいました。

次に、研究室の代表として、小河原先生が中村先生は、登山がお好きで、山岳部の顧問をされたり、モーター研を作られたり、後には、ダンスもされ……、このような先生を通

昭和47年6月10日(土)  
於 東京女子大2号館 キャンプテリヤ

じて、私の女子大に対するイメージが変わったと、学問ばかりでなく、多方面で数多くご活躍なさったことを紹介されました。平野先生・小林先生は、戦時中の、あの苦難の時代に於ける先生の思い出を話され、飯田先生・田所先生は、このような時代でも科学的・合理的に物事を解決されていく先生のお人柄をユーマアたっぷりにお話し下さいました。中谷先生は、数字をいじくってみますと、学校が出来てから54年、数専が出来てから45年たつ。先生のご在任の割合は学校の歴史の60%、数専の70%以上にもなる。しかも、戦前から勤められ、新しい時代へのバトンタッチをするしんがりの役目もして下さった、と話され出席者一同、数理科の歴史を考えて感慨無量でした。続いて、根岸・高村両先生は、いつの時代でも、口元に笑みを湛えられ、悠然としていられた先生、その先生の温かいお人柄について述べられ、余裕のある生活態度を見習いたいと、お話し下さいました。さらに、卒業生数人の方々が、防空壕へかけ込んだ時のこと、旅行先で病気になって先生の奥様にも大変お世話になった時のこと、モーター研でラリーに参加した時のことなど、数多くの思い出話を披露して下さいました。

最後に、藤井さん(43年卒)から目録が贈呈され、出席者一同で記念写真をとり、先生のすばらしいダンスのデモンストレーションを拝見して、会は、などやかなうちにとじられました。

## 中村進先生の こと

### — 平野先生のお話より —

私も、中村先生には非常に長い間、お付き合いいただいておりますが、先生はご自分のことについては、あまりお話しして下さらなかったのと、また、私も学校を去って14~5年たちますので、先生については知らないことばかりです。そういうなかで、一つだけ中村先生について思い出すことがございますので、そのことについてお話しいたします。

昭和16年に、先生が青山学院より本校にご転任になりまして、チャペルでの最初の礼拝の時の事がとても印象深く残っています。この最初の礼拝の時、先生はヨハネ伝の3章を引章されました。ヨハネ伝3章のはじめにある、イスラエル人の教師でユダヤ人の指導者であったニコデモが、イエスのもとを夜訪れて、神の国について、教えをこうというところ（中略）。私は、その時の先生の礼拝の司会にとっても強い印象を受けまして、この章に出合う度に、先生はここがお好きなのだなあと思います（中略）。そして、私は先

### 中村先生のご挨拶

私は、この31年間、大変楽しかったと思います。いろいろ、歴史的に見れば苦しいこともあり、また、学校の中にも困難な問題がありました。すんでみれば大したものではない。大体、教師というのは、教室が一番楽しい。学生と付き合って教室で話しているのが一番です。それに、この学校の基礎にある雰囲気、やっぱり楽しいのだと思うのです。これが久しく付合っていけるということにな

生とニコデモとの間に一脈通じるものがあるような気がいたします。といいますのは、先生は、外に現われた動的なご生活の中に、なにか静かなもの、瞑想して静かに考える、真理を求めて祈られるという、人知れず静かなご生活を持っていられると思います。そういう所から、いつも穏やかに、温かく、謙遜で、誠実なお人柄が生まれてくるのだと思います。

それから、先生は、山を愛し、海を愛していられます。我々が、戦時中、食糧がなくて、あくせくしている時代に、先生はキャンパスの中の植物を調べて、小さな雑草まで細かい観察をなさっていらっしゃる事を学報で知って驚いたのです。そういう静かな、ゆとりのあるご生活が、先生にはあると思います。先生が外に活動的な生活を持っていらっしゃるということは、内なる生活の中に、その力の源があると考えます。

先生には数学関係のことについては、大変お世話になりましたが、学校全体のためにも非常なお力添えをいただき、その長い間のご奉仕に対し、私もこの学校に関係したものと、感謝申し上げたいと思います。



ると思います。

私は学生にいったことがあります、数学だけしかできない人間ではいけない、数学も

…という人間になってほしい。数学だけしかできない人間もいますが、教育的な面から見ると、それでは十分でない。そういう気持が私のどこかにあったのです。

私は、学生時代に胸をやられました。当時、結核といわれることは死の宣告みたいなものでした。その頃から私の人生観は変わったといえます。健康が一番大事だと思い、寝ているとき、健康さえあればどんな苦痛にもたえられると思いました。ですから、山へ登って重い荷物を背負って汗をたらたら流していても心中では、健康の喜び、それに堪えられる喜びを味わっています。「健康第一」、それが私にスポーツをやらせました。私の選んだスポーツは、皆一人で出来るスポーツです。ダ

ンスだけは別ですが…(笑い)。バスケットや野球は、疲れた時に一人だけ止められない。疲れた時に、いつでも休めるということが、私にとって大切なのです。

このあと、アトラクションにダンスをとのことですが、中屋さんが、燕尾服を借りて下さったので、少々暑いですが、それにも堪える喜びを味わいましょう(笑い)。

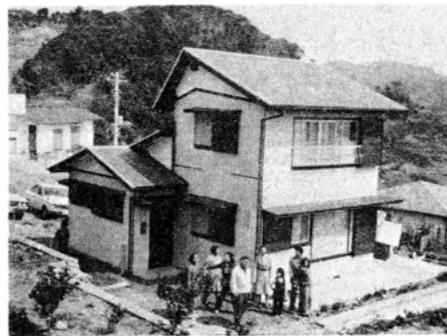
私の育った宮崎県の高鍋の海岸によく似ている千葉の東海岸和田浦に小屋を作ることにいたしました。みなさんのおこころざしを中二階の建造費にあてましたので、ぜひ泊りにいらして下さい。ありがとうございました。

河原林俊子(33年卒)記

#### 中村先生への記念品について

数専会主催の中村進先生感謝会は、平野先生、小林先生をはじめ多数の先生方と、全国からお集り下さった百余名の方々によって、なごやかな一時を過ごすことができました。

また、記念品代は皆様から多大の御協力をいただき、お蔭様で教職員、同窓生あわせて524名、725,000円に達しました。先生の御希望により、当日のデモンストラーションの費用等諸経費を差引いた、60万円を千葉に建築中の別荘の中二階の費用にあてていただくことになりました。ささやかではございますが、先生の長年にわたる御指導に対す



る私共の感謝の気持として、お届けいたしました。皆様の御協力を感謝いたしますと共に、ここに御報告申し上げます。

山本敦子(23年卒)記

#### 予 告

##### 数専会50年誌発行予定!!

1977年には数学専攻部開設50周年を迎えます。今から準備にかゝります。様々な思い出、各地のニュースや雑感、詩歌なんでも数専会までお寄せ下さい。お待ちしております。宛先 学内西寮里村秀子先生気付数専会

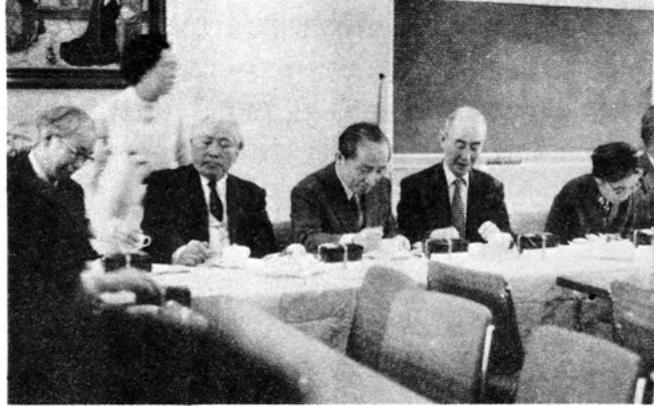
## 小林先生、中谷先生、中村先生を

### かこむお茶の会

昭和49年11月2日(土)

於 72年館

色づいた木々がさわやかな秋の日ざしに照り映える72年館に、賑やかな声と共に三々五々と集まるその昔の生徒たちは120名近く。今日は、このたび母校の名誉教授になられた小林薫一先生、中谷太郎先生、中村進先生をかこむささやかなお祝の会である。



この会は数理学科の研究室と数専会の共催ということで、研究室の先生方8名全員がご出席になった。そして既に名誉教授になっておられる平野雪枝先生にもご出席頂いたので、先生方が12名という、私たち生徒にとっては、文字通り勿体ない程の豪華版である。又生徒の中には、はるばる九州や大阪から飛んでこられた方もあって、会場は溢れんばかりであった。

名司会者寺田さん(22年卒)によって会が始まる。

数学専攻部が創設されて間もない昭和4年に母校に來られて以来、数専を育てて下さった小林先生。ご退職後もずっと研究部の読書会をご指導下さる中谷先生。そして数専の知られざる苦難の裏面史を語られた中村先生。三人の先生のお話しによれば—

終戦後、母校が新制大学に切りかえられる折、新しく文学部が設置されることになっ

た。文学部では、その中に数学科のはいる余地はない。数学科はまさに消えてなくなる運命に立たされたのであった。このとき先生の必死のご努力によって、短期大学の中によりやく数学科はその命脈をつなぐことが出来たのである。そしてその後長い間の苦難の道が続くのであるが、昭和36年に文理学部が発足して、4年制の数理学科としてその地位が認められることになる。次いで大学院も設置されて、遂に学内に今日の地位を占めるに至った—。知らなかったこととはいいながら、「数学科が消えてなくなる」なんて、今始めて伺って私は背すじが寒くなるような思いであった。和気あいあいのうちに会は進んで、根岸愛子先生のご紹介によって、研究室の各先生方のご挨拶があり、又11年卒の花岡松枝さんよりは、お祝のことばと自作のうたの贈呈があった。「これは平野先生のときのうたとは違います。そして3つのうたは、みな

違ってきますから、先生方はどれでも好きなものをお取り下さい。」これはくじみたいだと一同大笑い。3人の先生方が短冊を1枚ずつおとりになって、うたを披露なされると、何とそれぞれのうたは、それぞれの先生にびったりなのであった。

最後に、創立当時より母校におられた平野先生より、お話があった。当時の学生たちの中に数学を学びたいという人たちが沢山いて、課外にも熱心に勉強していたりした。彼女たちのその熱意と、数学を特に重視しておられた安井先生のお気持ちが、遂に学校当局をして数学専攻部を設置させるに至ったものである。このころのお話は、私のように古い卒業生は、学生時代に伺っていたことではあるが、新しい卒業生にはどの位知られていることであろうかと考えさせられた。

私が入学する頃は無試験検定は申請中であり、上級生がこの認可を得るべく、真剣に勉強していた。この様子を眺めながら1年生の私たちは、5分の休みに芝生にとび出して

今は亡き阿部八代太郎先生をあきれさせたものだった。そして先輩の方々のこのような努力のおかげで、昭和12年には無試験検定が認可になり、その後の卒業生はこの恩恵に浴することになるのである。平野先生はこの当時のことについても話されたが、これらのことも、後に続く人たちは忘れてはならないことだと思う。暮れやすい秋の日を惜しみながら、讚美歌403番をうたって会は閉じられたが、更に会場を下のロビーにうつして、賑やかな歓談は続いた。思えば昭和2年の創設以来、数学専攻部、数学科、数理学科等その名称は変わったが、その移り変わりはそのまま「数専」の歴史を物語るものである。しかし名称は変わっても、そこに脈々として流れるもの……は昔と少しも変わっていないようである。その意味で今日の会は、古い先生と新しい先生と、古い卒業生と新しい卒業生と、一堂に会して、心あたたまる「伝統ある数専会」そのものであった。

堀 すみ(14年卒)記

## 回 顧 と 感 謝

小 林 薫 一

私はかつて「36年の歩み」のなかで、次のようなことを書いたことを記憶しています。

戦後は思いがけずも臨時仕立てのバスに乗る破目になって、数学科もこのさきどうなるものかと随分気をもんだものです。2年制の短大が設けられたのは昭和24年であったが、文科系の学科とちがって、基礎課程が終ると同時に卒業させねばならず、やむなく昭和29年度から数理科だけ3年制度に改編したのでした。

私は冗談に、よく4・3・2・3・4制とは何のことかとたずねてみると、多くの卒業生は怪訝な顔をしています。これは無理もないことで、数学専攻部が過去において歩んできた極めて多難な道であったのです。想えば、随分遠い迂回路を経てきたわけですが、それでも、とうとう高木学長の時代になって初期の希望が達せられ、うれしいことでした。

さて、昨年7月私たち3人に名誉教授の称号が与えられました。これで平野先生を合

わせると、当時のわれわれ4人がそろって、この榮譽を授与されたことになります。

実は、昨年はじめて原島学長からこの話を伺ったときには、果しておうけしてよいものかどうか迷ったのですが、先生方がみな同じ目的のために長い間奉仕された過去のことなど連想するとき、おうけしてよかったと思っています。人間の一生はそのときそのときの節目の積み重ねであることを思えば、これも私たちにとって、よい人生の1区切りになるかと思っています。

次に、この機会をかりて一言中村先生に感謝の言葉を申し述べたいと思います。

中村先生は京大時代の私の後輩になりますので、あえて中村君とよばしてもらいますが、同君と私との出会いは昭和16年のはじめごろだったと記憶しています。したがって、戦中戦後を通じて東京女子大学が最も困難に直面しておった時代に、しかも30年余の長い間奉仕されたわけでありませう。

同君が、とくに、学生指導の面ですぐれた才能をもっておられたことは皆さんご承知の通りで、山岳部やモーター研の創設なども同君の力添えによったものだと思います。今年のはじめ新聞紙上を賑わした「エベレスト日本女子登山隊」の隊長久野英子さん（昭和28年数理科卒旧姓宮崎）などもその感化をうけられた1人でありませう。

与えられた余白もなくなったので、この辺で終りにしたいと思いますが、私との長い付き合いの間にも、ただの一度もいやな顔を見せたこともなく、楽しく過ごせたことは同君の人柄によるもので、その寛容な態度に深く感謝せずにはおられません。

いつまでもお元気で、健やかにお過ごしくださいよう祈って筆をおきます。



## 夢 の 跡 に

中 谷 太 郎

このたび名誉教授の称号を、思いがけなくもいただき感謝にたえません。私は1924年以来50余年の教員生活のうち、東京女子大学に通算28年余在职しましたが、諸先生、同窓生とくに数専会、学生の方がたから受けることのみ多かったという感をいよいよ深くして居ります。昨年11月2日研究室・数専会共催で、小林先生、中村先生と私のために盛大な会を催して下さい、数理学科の諸先生・平野先生、各地・各年代の卒業生の方がたから、数かずのご好意をいただき、幸せいっ

ぱいの思いにひたされました。ありがとうございました。会場72年館の窓から、グラウンド・新旧の体育館・スロープの杜などを眺めながら、いろいろ思い出していました。5月末のブレーデーは何より愉快でしたね。危機感の深まった昭和10年代と開放感のみなごった20年代以後の時代との差違を超えて、そこにはいつも若い力と夢があふれていました。数専・数学・数理はよく優勝し、夜の野外舞台でも活躍しましたね。私もいい気になっていっしょに騒いだものです。長い年月の

映像が稲妻のように去来して、末枯れた11月の芝生が「夢の跡」のように目にうつりました。

この頃「楽しい学校」という発想が、「クタバレ学校」の時流に抗してつよく打出されてきております。この発想は生徒の主体性を尊重することにもとづいておるようです。

そして東京女子大学が終始一貫して楽しい学風を育ててきた営みが思い合わされます。

ことに初めの頃、毎週講堂で伺った安井哲先生のお話は印象深く楽しいものでした。

「なぜ、分数で割るには分母と分子をとりかえた分数を掛ければよいのか、というわけが

わかった時、心の喜びを覚えた。……」というお話のひとつこまにも、子どもの「なぜ」を大切にすべきことを教えられました。（黒表紙小学校算術教科書教師用書には、計算の仕方が指示されていただけです）。

今、4月なかば、桜は咲き、若葉は燃え、新入学生は生き生きと行き交う状景が見えるようです。夢の跡には、また新しい夢が生まれ、研究と教育が楽しい雰囲気の中で進められていることでしょう。そして数専会も新しい年度の活動が始まることでしょう。私たちも年齢を超えていつまでも夢をもちつづけたいものと願っております。

停

年

中 村 進

アフリカの草原をかける野鹿の群。かつては俊足と機智をほこり群の指導者であった者も、老ゆれば足もにぶり群が猛獣におそわれるとき逃げ遅れてそのえじきとなる。悲劇ではあるが追撃に歯止めをかけ群を守る役目を果していることになる。

大木の老葉。かつては同化作用に専念し、ひたすら木の成長と若芽の育成に寄与した者も若葉が萌え出る頃はその役目を終り枝を離れて根本に散り敷き、やがてはくちはてる。而しこれは堆肥となって再び木の成長をたすけることになる。これが大自然の中に仕組まれた奇しき法則である。

人間は自我が強すぎるためか自らの老化に気付かない。まだまだ若い者には負けないと言いたがる。第三者からもう無理だからとも言いがたい。そこで自動的に老いたる者は去り次の世代に仕事をゆずることが出来るように

考え出されたのが停年制の本来の意義であろうか。「おやじおやじといばるなおやじ、おやじやせがれのぬけがらよ」我等寮生達、肩を組んでデカンション節でどなって歩いた生意気盛りの高校時代を思い出す。停年とはその



ぬけがらになることである。人生の一使命終ったことの意味であろう。

退職して義務・責任・体面などという重苦しさから解き放されると、世の中が何だか明るくなる。ネクタイをきちんとして、肩ひじ張って紳士面して歩くこともない。きょろきょろと物珍らしげに裏町を歩いても後めたい思いをしないですむ。今までスポーツは、健康のためという名分が立つので速慮なく出来たが、その他の娯楽、碁・将棋・マージャン等は手を出しかねた。専門外の読書も、あまり時間を取られることは何となく気がとがめて出来なかった。

退職後はこのタブーを解かれて、読みたいもの、したいことが色々頭をもたげて来る。

今読みふけているのは日本の古代史についてである。戦前の記紀に書かれた歴史しか知らなかった者には終戦後禁が解かれて、にわか活潑になった古代日本史についての諸説遺跡発掘の数々、邪馬台国論争、騎馬民族

征服王朝説、隼人・倭人の由来等々未だ定説がないだけに素人も想像を廻らす余地があり興味はつきない。

もう一つは絵を始めたこと。学校出たての頃といえば44～5年前になるが油絵道具一式買い込んで日曜画家を志したことがある。そのまま続けて居れば今頃は一応物になっていたかも知れないが、自己流で数枚練習した程度でろくに絵具の名前も覚えないうちに忙しさに追われて中止してしまった。その心残りが今頃になって再び芽をふき出したらしい。人が見れば下手な絵でも画いてる本人は結構楽しいものである。今のところほめてくれるのは女房くらいのもものだけれど、そのうち追々腕も上がることだろう。今まで慢然と眺めていた風景もその中から光の明度や色の美しさを見付けだそうとする神経がはたらくようになると一層楽しいものである。

かくて余生の楽しみには事欠かないが、落葉のように朽ちて堆肥になれるや否や？

### 平野先生の喜寿をお祝いする会

昭和47年2月8日、平野先生が喜寿をお迎えになる。久々にお目にかかってお祝いを申し上げたいけれど、先生は近頃どうしていらっしゃるかしら？ 皆で集って先生をお招きしてお祝いの会をしようではない？ そんな声がちらほらと聞かれ、だんだん具体的になってゆきました。そして、4月8日に春、暖くなるのを待ちかねて、大げさなことは何もしないからと、ご速慮なさる先生をとうとう杉並会館までおいで戴いて小さなお茶の会を開きました。

ところが、ほんの20～30人だと思っておりましたのが、小林先生をはじめ、数専の方たちだけでなく、大正11年第1回の実務

科や高等学部の卒業生で、その昔平野先生にお教えを受けた方々、それに全国からお集り下さった方々で会場は超満員。60名を越す盛会で、さすがは平野先生の会ね、とそのお人柄を感じさせられました。先生はとてもお元気で、大勢の教え子に囲まれたこの集まりを心から楽しんで下さいました。皆様のおこころざしや、当日の会費の一部より記念品として東京女子大のメサイヤのレコードと、先生にお好きなレコードを買って戴くように金一封を、お菓子に添えて贈呈いたしました。

平野先生、私たちのためにいつまでもお元気でいらして下さい。

山本敦子(23年卒)記

## 研究室だより

会報第9号に小河原先生が数理学科の現状をおかきになってから、早くも5年たちました。その時丁度学園紛争の最中でしたが、その後、大学も学生も数学研究室のメンバーも変わりました。大学全体としても組会の時間がなくなったり、プレイデイが学生の運営にまかされて、伝統のボーンファイアがなくなって淋しくなりました。昭和44年西校舎の裏側に研究室棟の3号館が完成し、数学研究室もこちらに移りました。学生は、紛争後おとなしい学生が多くなり、ミニからロングヘアファッションにも敏感に反応するキャンパスの風景で、数理学科も他学科と全く変わらない雰囲気です。教員免許状をとる人が少なくなった反面、就職では、教員を選ぶ人がふえました。何でも資格をとっておこうとは思わなくなったせいでしょ。

昭和46年待望の大学院が発足し、一年間待機していた人も含めて7名が入学しました。昭和48年第一回の学位取得者を6名送り出しました。その後入学者を厳選していますので、昭和49年3名、今年も3名の修士が生まれました。その他、東大や早稲田などの大学院に進学する人も数名出ています。大学院卒の就職は、一般企業はむずかしく、大学助手や、高校などの教師が大部分です。

研究室は、昭和47年中村進先生が停年退職され、昭和48年夏には、非常勤講師の島内さん(35年卒)が急逝され淋しくなりましたが、新しく30代前半の潑刺とした山島成穂先生と篠原昌彦先生が加われ、研究室が若返りました。山島先生は代数幾何が御専

門で代数学を、篠原先生は確率論が御専門で、東工大へ移られた雨宮先生に代り解析学と確率論を担当して下さい、ともに東大卒の同期生です。助手は長石真澄さん(東工大修士)、諏訪由利子さん(東京女子大修士)で演習も担当して下さい、院生も加えて研究室に活気が出て来ましたし、学部の学生にもよい刺激を与えてくれます。

去年から2年次の必修を少くして、少しずつ巾広い勉強をして、卒業研究のゼミに生物や化学もとれるようになり、将来、生物化学系を拡充するための布石も進んでいます。入試の文科系2科目、数理学科3科目は、卒業生の間でも大へん不評でしたが、昭和52年度から両方とも3科目となり、文科系は、英国と、社・数より一科目選択、数理学科は、英、数、理となります。卒業生の皆様の御援助と、代々の研究室の先生方の努力により、東京女子大学の数理学科は大へん充実しているとの評価が定着して、入学志願者も多く、卒業生の就職も順調で感謝しております。今後とも卒業生の皆様の御支援をお願いいたします。

根 岸 愛 子



\* この号のカット・絵はすべて中村進先生の筆によるものです。

## お母さんたちの数学勉強会

私の住む前橋は、東京から100Kmの一地方都市である。同窓会支部としての群馬支部は会員数65名程で、そのうち数専会の人7名である。

地方支部となると、コース別交流よりも、卒業年度の近い人たちの交流の方が多くなる。そして集まったの話題はやはり子供の学校や、勉強のことになるのも世の常である。そんなとき、Iさんが私に言った。「集合」について少し教えて頂けないかしら。それに「2進法」もよくわからないのですけれど……。すると横から私も、私もという声が出て、遂に勉強会を開くことになった。

これがこのグループの生まれるきっかけで、私がプリントを作り、3回ほどでこの勉強会は終わった。

このあと、これだけでは物足りない人たちが、今度は本を読んで少しずつでも勉強を続

けたいというので、数学読書会が発足した。

本も既に2冊目となり、今は「中学生のための新しい数学」を読んでいる。会員数は目下9名、全員そろろうことはなかなかないが、会は毎月欠かさず続いている。みな1ヶ月に1回頭をひねって考えたり、式を解いたりすることがとても楽しそうである。私も時に意外な質問を受けて、なるほどそういう考え方もあるのだなあと、こちらも考えさせられたりする。会員の専攻科目の内訳は、英語3名、国語2名、社会1名、数学3名で、昭和30年代前半の卒業生が多い。勉強会は私宅で開かれているが、会員手作りのケーキが出てきたり、そのあとの雑談も又楽しい。

私としてはそろそろリーダーの座を下り、今度は、「古文を読む会」にでもしてほしいのだが、まだ当分この会は続きそうである。

堀 すみ(14年卒)

## 中村先生の海の家を訪ねて

花の便りも真近かな3月の下旬、数専会の諸先輩とともに、中村先生の房総の海の家に一晩お邪魔することになりました。

東京から車で行くメンバーと電車で行くメンバーと計10名で、現地で合流しました。

私は、内房2号で新宿を発って、久し振りの旅に仕事の疲れを癒しつつ、予定通り3時間で房総半島の東南和田浦の駅に立ち、少し冷めたい磯の風に吹かれながら、先生のお出迎えに恐縮しつつ、車で10分、目的地に着くことができました。

山地を切り開いた斜面には、大変カラフルな可愛い家が思い思いに建ち並んでおりました。その中にえんじの屋根に白を基調とした

2階建が先生のお家でした。

特に南に面した明るい2階のお部屋は卒業生の皆様でご自由にお使い下さいとのことでした。一同先生のお心遣いを嬉しく思いました。窓を開ければ、ふくらみはじめた新芽の緑、積木のような段々畑、菜の花・エリカ・金せん花の色美しい丘、絵のような山々その向こうに白波の寄せては返す広々とした太平洋のあるすばらしい眺めでした。

おいしかった空気、見事な活き作りの夕食や楽しい語らいのひとときをもつことができましたことを、中村先生をはじめ数専会の皆様へ深く感謝致します。

江頭和子(36年卒)

## 北 海 道 だ よ り

昔は夏が来ると諸先生が、数学科の学生を連れて道内一周され、その都度数学科卒業生が集まって楽しいひとときを過しましたが、この頃はあまりそういう機会がなく、数専会として集まることもなかなかありません。そこで個人消息のわかっている分をざっと申しますと、中山多賀(14年卒)フランススコ修道会の管区長として活躍。桂田芳枝(16年卒)北海道大学を卒業後、助教授を経て初の女子数学教授になり、道の文化賞を受賞。昭和50年退任。前野沢恵(16年卒)47年御逝去。小野寺志津子(18年卒)47年御逝去。御主人様

が遺稿集を出版なさいました。東山貞子(22年卒)北海道教育大学釧路分校の教授。山下タミ(23年卒)北星学園女子中学・高校の教諭として活躍。東京の数専会に希望があり、夏休みなどに学習研究会又は交歓会のような集まりを開いて頂きたいとの事。戸沢桂子(23年卒)開業医の御主人様のアシスタントとして重要な方。近藤日出子(23年卒)華道と茶道に専念。鈴木恵子(28年卒)育児に専念。湯浅優子(36年卒)育児に専念。実藤三枝子(46年卒)東京海上火災保険に勤務。というところです。近藤日出子(23年卒)

## 報 告

### I 研 究 部

昭和31年 当時短大だった数理科を4年制の大学にするために私たちも何かしよう、先ず勉強しよう、とこの研究会ができました。それから18年余り、内容は少しずつ変わって来ますが絶えることなく続けられています。それは御指導下さる先生方の御好意と、集って来る会員の熱意によるものでしょう。毎年4月にその年の計画を立て、東京と近県の方に通知を出して居ります。

#### 1) 読書グループ(中谷先生)

「初等整数論入門」銀林浩著 国土社  
月1回 第3土曜日14:00より

中谷先生は昭和32年4月から18年の間御指導下さいました。36年から「読書グループ」となり多方面に亘りいろいろの本を読んでいます。参加者の多いグループです。

#### 2) 統計ゼミ(小河原先生)

「Introduction to Mathemati-

cal Statistics」R.V.Hogg &  
A.T.Craig 月2回 第2・4土曜日  
14:30より

小河原先生も31年11月の始めから御指導頂いています。長い間いろいろな本を読みました。今度は確率論を始めからやり直しています。

#### 3) 根岸先生ゼミ

線型代数入門 齊藤正彦著 東大出版会  
月1回 第1土曜日14:30より

昨年高校に行列が入りましたので1年間初歩を指導者なしで勉強しましたが今年は根岸先生にお願いしてもっと充実した勉強をしたいと思っています。

#### 4) 追分研修会

昭和37年から始められた夏季追分研修会は第8回(44年)までを会報9号でお知らせしました。その後今年の第13回までつづきましたが、今年は同窓会の事務が一般の希

望が非常に多いので団体予約をしないことになりました。残念ながら「中止」になりました。なお、研究会についてご希望やご意見がござい

ましたらお聞かせ下さい。なるべく皆さまのご希望に添うようにして、何時までも続けていきたいと思ひます。

## II 厚生部報告

家庭教師・中高校の講師などをお世話していますが、最近はやんど求人がなくあまり活動していません。今年の名簿を更新して、もっと積極的に働きたいと思っています。

- 1) 仕事を求める方は名簿を作りますのでお申し込み下さい。用紙を送ります。
- 2) 人を求める方は御連絡下さい。名簿の中からお世話します。

3) 成立した場合は連絡料として月収の1割程度(但し1回だけ)を名簿登録者から会に頂きます。

申し込み先 〒187

小平市花小金井3-130-33

矢矧かつ子 電話 0424-73-8417

仕事がありましたらどなたでもお世話下さいますようお願いいたします。

中屋澄子(7年卒)、矢矧かつ子(26年卒)

## III 数専会経過報告

(昭和45年1月~50年3月)

- |          |     |                            |
|----------|-----|----------------------------|
| 45. 3.25 | 説明会 | 新卒業生へ数専会の説明                |
| 45. 3.28 | 幹事会 | 総会に関する件、講演会の件、45年度研究会講座の件  |
| 45. 6.27 | 総会  | 会長改選                       |
|          | 講演会 | 電子計算機についての講演と見学 講師 山本欣子氏   |
| 46. 3.25 | 説明会 |                            |
| 46. 5.29 | 幹事会 | 役員決定、研究会追分研修会の件、総会中止の件     |
| 47. 2.19 | 幹事会 | 総会の件、平野先生喜寿のお祝の件、中村先生感謝会の件 |
| 47. 3.24 | 説明会 |                            |
| 47. 4. 8 | 祝賀会 | 平野先生喜寿のお祝い                 |
| 47. 6.10 | 総会  | 会長改選                       |
|          | 感謝会 | 中村先生感謝会                    |
| 47.10.21 | 幹事会 | 中村先生謝恩募金報告書発送の件、役員決定       |
| 48. 3.25 | 説明会 |                            |
| 49. 3.25 | 説明会 |                            |
| 49.10.12 | 幹事会 | 小林・中谷・中村先生祝賀会の件、総会の件       |
| 49.11. 2 | 総会  | 会長改選                       |
|          | 祝賀会 | 小林・中谷・中村先生を囲むお茶の会          |
| 50. 1.25 | 幹事会 | 役員決定、会報発行の件、数専会50年誌の件      |
| 50. 3.25 | 説明会 |                            |

## Ⅳ 数専会会計報告

### 1) 一般会計

		昭和 44年度	昭和 45年度	昭和 46年度	昭和 47年度	昭和 48年度	昭和 49年度
収入 の 部	前年度より繰越	182,515	142,265	183,286	213,256	255,976	294,396
	終身会費	86,000	43,000	28,000	43,000	53,000	49,000
	追加会費	35,100	5,900	500	1,300	0	2,500
	ブローチ代金	6,750	500	13,000	0	9,950	0
	雑収入	5,010	15,300	0	10,000	0	0
収入合計		315,375	206,965	224,786	267,556	318,926	345,896
支出 の 部	通信費	8,925	7,614	6,530	9,440	9,530	11,300
	印刷代(会報を含む)	164,150	12,050	0	0	0	0
	雑費	35	4,015	5,000	2,140	15,000	2,315
	次年度へ繰越	142,265	183,286	213,256	255,976	294,396	332,281
	支出合計	315,375	206,965	224,786	267,556	318,926	345,896

### あ と が き

### 2) 図書費

年月日	摘要	収入	支出	差引残高
	前より繰越			86,131
4 4.3.2 9	図書費		14,320	71,811
4 5.1 2.4	園遊会手伝代金	30,000		101,811
"	図書費		30,000	71,811
4 6. 6.	園遊会手伝代金	15,000		86,811
4 7.1.2 1	図書費		62,910	23,901
	利子	162,666		40,167
4 7.7. 9	寄附	8,460		48,627

里村秀子(17年卒)

六年ぶりの会報をお届けします。経費の関係上このような形のものしか出来なかったことを残念に思います。本号は数専会の現況報告にとどまってしまいました。会報のあり方について、今後検討しなければならぬ問題が多々あることを感じます。どうぞ、ご感想・ご意見をお聞かせ下さい。

「会 報」 第 10 号

発行 昭和50年9月  
発行者 東京女子大学同窓会

数 専 会

東京都杉並区善福寺2-6-1